

# かわさきみどりの共創プロジェクト

川崎市市制100周年記念事業・  
全国都市緑化かわさきフェア実行委員会事務局

COLORS, FUTURE! ACTIONS  
KAWASAKI 100th



# 実行委員会主催事業の概要

【再掲】  
第5回市制100周年幹事会

現在、実行委員会主催事業では、「フェス&カンファレンス」、「道路公共空間」、「脱炭素」、「みどりの共創プロジェクト」がそれぞれ検討を進めています。

プロジェクト名	事業概要	議題内容
<p>フェス&amp;カンファレンス</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェスティバルでは、既存のイベントとも連携しながら、生み出されたさまざまな事業を一体的に展開し誰もが楽しめるイベントを実施する。カンファレンスでは、「あたらしい川崎」を考えるきっかけとして「"好き"をあつめ、かけ合わせてゆく（仮）」をテーマに発表やトークセッション、ワークショップ、ブース出展などを実施する。（R5年はフェス11/5（日）～11/26（日）、カンファレンス11/17（金）～11/18（土）の日程で開催）</li> </ul>	<p>企画内容の承認</p>
<p>道路公共空間</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的な公共空間の効果的かつ持続的な活用を目指し、市民まつり等の周辺イベントと連携しながら、市役所通りを活用し、川崎市のコンテンツ（アート、スポーツ、音楽など）やみどりを活かした賑わい創出のイベントを実施する。（R5年は11/5（日）にて確定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト案の承認</li> <li>事業費の承認</li> </ul>
<p>脱炭素</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素アクションにつながる新たなライフスタイルを市民に提案し、市制100周年をきっかけに溝の口発で新しい文化を創っていくという事業のコンセプトに基づき、脱炭素を加速したい事業者や、環境配慮型ライフスタイルに価値提供したい事業者との共創を実現し、誰もが積極的に脱炭素アクションに取り組める仕組みを構築する。</li> </ul>	<p>プロジェクト案の承認</p>
<p>みどりの共創プロジェクト</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みどりでつなげる暮らしやすく、住み続けたいまち、かわさき」の創出を目的に、ICT×みどり、脱炭素×みどり、体験・学習×みどり、健康・スポーツ×みどり、コミュニティ×みどり、という5つのテーマの中から文化として根づくムーブメントとなる取組、将来的な自走化に向けた事業展開をめざす。</li> </ul>	<p>報告</p>

## 2. みどりのまちづくりに向けて

【再掲】

第5回市制100周年幹事会

### ● 取組姿勢・目指すべき将来像

将来像

## みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまち

昨今の社会状況の変化等を踏まえ、かわさきフェアを契機として、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、ウェルビーイング※を実現し、住み続けたいと思われ続けるようなまちをつくるため、目指すべき将来像を設定します。その将来像の実現を目指し、かわさきフェア開催以降にもつなげる様々な取組を、かわさきフェア開催前から展開していきます。

※ウェルビーイング

現代的ソーシャルサービス(社会福祉事業)の達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。昭和21(1946)年の世界保健機関(WHO)憲章草案において、「健康」を定義する記述の中で「良好な状態(well-being)」として用いられた。最低限度の生活保障のサービスだけでなく、人間的に豊かな生活の実現を支援し、人権を保障するための多様なソーシャルサービスで達成される。(出典:「知恵蔵」(株)朝日新聞出版発行)

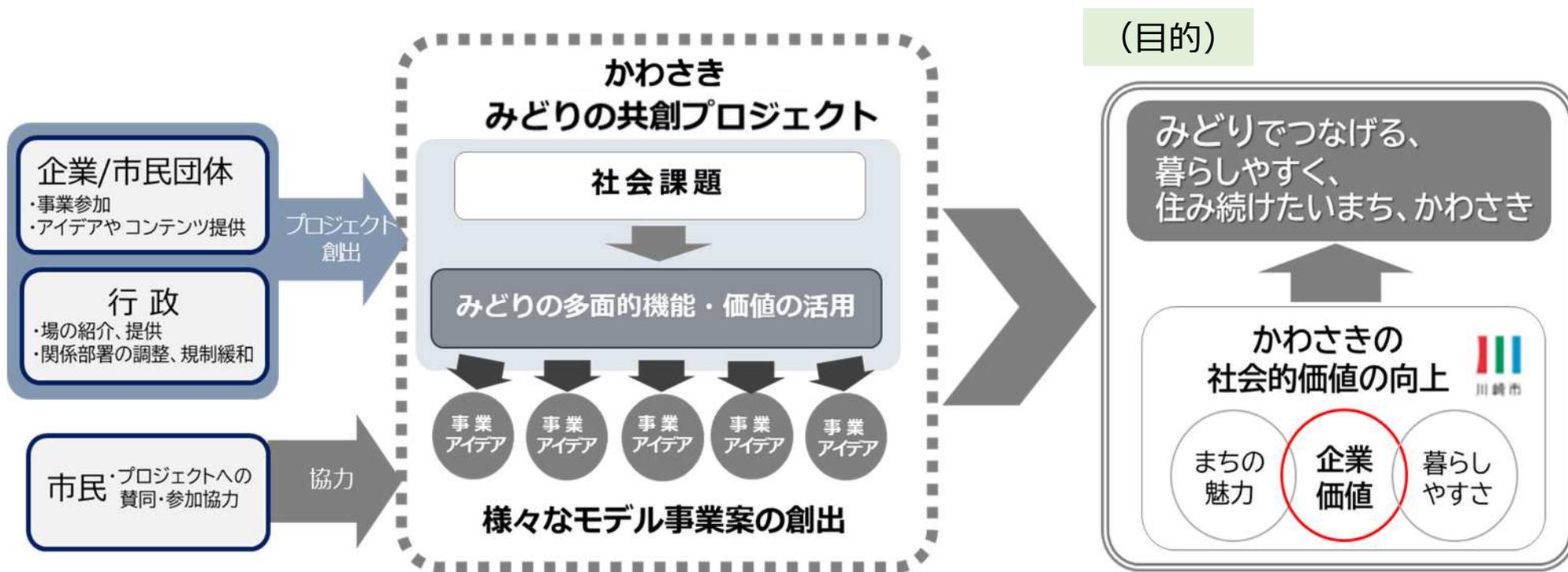
# 3. みどりの共創プロジェクトの目的

【再掲】  
第5回市制100周年幹事会



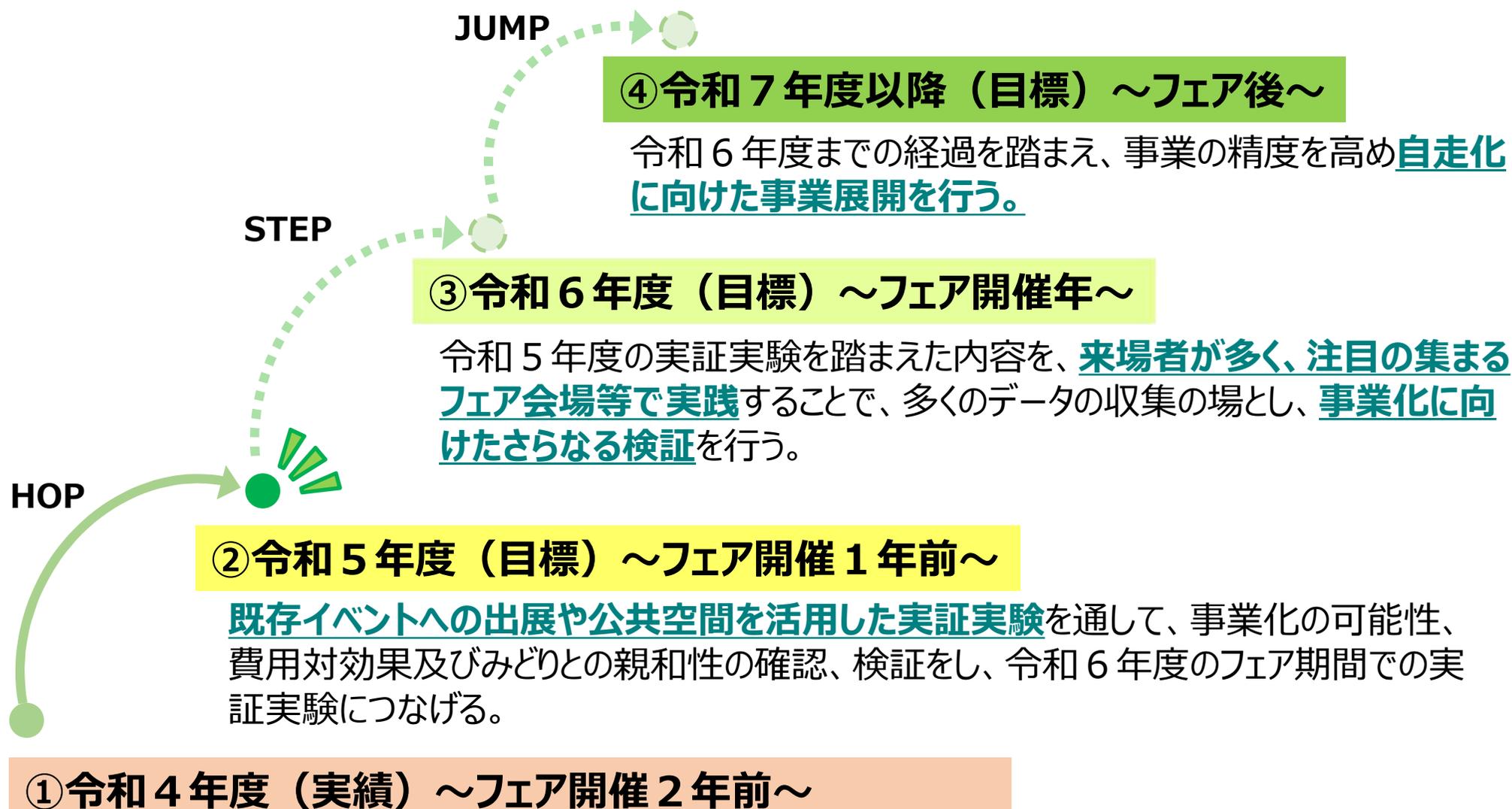
「みどりでつなげる暮らしやすく、住み続けたいまち、かわさき」を目的に、  
**新たな100年に向けて**、文化として根付くムーブメントとなる取組を行う。

## 共創プロジェクトの目的とプロセス



- ・多様な主体が、互いの知見を持ち寄ることで生み出される、**柔軟な発想をもとにしたこれまでにない事業案を提案**
- ・行政職員も検討過程に加わり、関連分野の**最新の動向や制度を踏まえる**ことで、**社会実装の可能性を向上**
- ・生み出されたアイデアは、**既存事業の見直しや加速化、新規事業のアクセントとしても活用**

# 令和7年度以降を見据えた各年度の目標



令和6年度までの経過を踏まえ、事業の精度を高め自走化に向けた事業展開を行う。

令和5年度の実証実験を踏まえた内容を、来場者が多く、注目の集まるフェア会場等で実践することで、多くのデータの収集の場とし、事業化に向けたさらなる検証を行う。

既存イベントへの出展や公共空間を活用した実証実験を通して、事業化の可能性、費用対効果及びみどりとの親和性の確認、検証をし、令和6年度のフェア期間での実証実験につなげる。

継続して議論できる場を設定し、実行委員会に所属する様々な業種・業態の企業・団体が意欲的に参加し、「〇〇×みどり」の5つの事業案が提案され、あと一步のアイデアや後押しにより事業になりそうなアイデアが集まる。行政職員、教員や保育士の参加により、庁内の動きや法令制度、子どものリアルな現状を参加者と共有した<sup>5</sup>。